

世界のため、未来のため

「キュツ」。

蛇口をひねる音。給食の準備だ。生徒たちは洗い場に行列をつくり大変混雑。皆、手を洗うことに必死な様子であった。その時だ。私蛇口から水を出したまま手を洗う生徒。私はいけないことをしていると分かっていたが、その子に注意できなかった。これは、私が小学校高学年の頃のエピソードである。この頃、私は環境委員会という仕事をしていた。この仕事は、節水、節電などの環境を守るための活動であった。私は、節水担当。節水を呼びかけるポスターを作成し、全校の生徒が節水に協力してもらおうという取り組みであった。私はとにかく、水は無限にある資源ではない。だから、節水をしなくてはならないのだというとしか頭に浮かばなかった。自分で

生駒市立上中学校 二年

松本 怜果

作ったポスターを目にするたび、本当は節水はそのためだけにあるのだからかと思いに、日常生活を送る中で行っていることをヒントに考え続けた。しかし、節水と結びつく事がなかったのだ。

委員会の仕事が再びあった。いつもどおり仲間と集まった。

すると、担当の先生が黒板の前に立ち、話し始めた。

「みなさん、節水ってなんのためだと思いますか。もちろん、水は限りのある資源であるからだということもあります。しかし、限りのあるということとは、いつか水が無くなってしまうことがあるという事です。先生は、未来のためにするのではないかと考えています。このことを心がけてこれから生活していきましよう。」

私は、この言葉を初めて耳にしたとき、こ

れが本当の答えか知り、納得したのだ。それが、私に對しての関心を持つようになり、これまでより、仕事のやりがいを感じた。

水は、どのようにして生まれる資源なのか理科で学習した。そのながれは、海から蒸発して雲になり、雨や雪となって地上に降り、川から再び循環するという自然がつくり出す恵みである。近年、地球は水害、地震、台風といった自然災害。そして、地球温暖化。

私たちの暮らしている日本は、蛇口をひねるといつでも清潔な水を手に入れることができる。しかし、世界を見渡せば、水を手に入れることを命がけで行っている子どもたちもいる、中には水を手に入れることができなくて、清潔ではない水を飲む手段しかなくなり、それにより命を失う子どもたちもいるという。ことをユニセフの宣伝を見て知った。

人ごとではないのだ。水によって被害をもたらす、水害。そして、きれいな水が手に入らず水不足になやまされる人々など、大切な命が奪われるといった私たちにはまだまだたくさん問題があるのだ。

私は、以前体験したエピソードで注意できなかったとあったが、未来のためにも節水すること大切だということを知ったので、今なら教えてあげることができると思った。

「水」それは限りのある資源。人間の体の約六十パーセントが水分であり、水は生き物の生命を支えるのにかかせないのだ。世界中の人々が水に困ることなく幸せに暮らせる社会が一日でも早くつくることができたらいいなと願う私だ。その夢を実現させるためには、私たちが「私には関係ない」や「どうにかするだろう」と他人事にせず、理解し、一人ひとりでできることは何かを考え、世界中の様々な人々と互いに助け合うことが大切であるのだ。